〔伊豆海島風土記 二〕三宅島は、伊豆國加茂郡下田湊より巳午の方にあたり、海上二十六里、江戸よりは午未の間にあたり、海上六十里ばかりあり、尤潮急にして波高く、渡海不易といへども、順風には伊豆相模の浦々より、一日のうちに著岸なるゆへ、江戸へも一年には四五度づゝも島船ゆきかよふ、島の地程は、東西平均二里餘、南北へは四里餘りもまたがり、山々嶮岨にして平地なし、濱邊は猶たへず波の打洗ふゆへ、巖石顯れ悉く荒礒なり、

〔伊豆七島調書〕三宅島 東西二里程 南北三里程 江戸より海上五十九里程

一家數二百三十七軒、人數 男四百三十五人 女五百九人 野牛有、數不知、

富賀三島大明神　神主壬生甲斐

寺六ケ所 下田海善寺末淨土宗大林寺 豆州新島長榮寺末法花宗善陽寺 寺 當島大林寺末妙樂寺 同海藏寺 同圓德寺 同普西寺

一御年貢金拾六兩一分宛年々定納仕候

一御救米無御座候

一御圍米無御座候

一此島田方無之、畑方計有之、麥、粟、稗、大豆、芋、大根、蕪等少々宛、多葉粉少々作り、其外のたみの實、山の芋、葛、野老、あした草取、食に足粮に仕候、此島稼には、男は薪を取、江戸へ積出し、夏秋鰹を釣、冬春は海苔を取、其外海鹿は、ゞびろめを取、渡世仕候、女は蠶を飼、葛、野老、薯蕷、椎の實、あした草取、渡世仕候、

一此島の椎木の澤山にて、椎實なり候節は、江戸へ出し、夫食に代替申候、

一廻船五艘、漁船二十艘御座候、〇中略

寶暦三年酉十二月

〔伊豆海島風土記 二〕御藏島は、伊豆國加茂郡下田湊より巳午の境にあたり、海上三十里餘、江戸よ